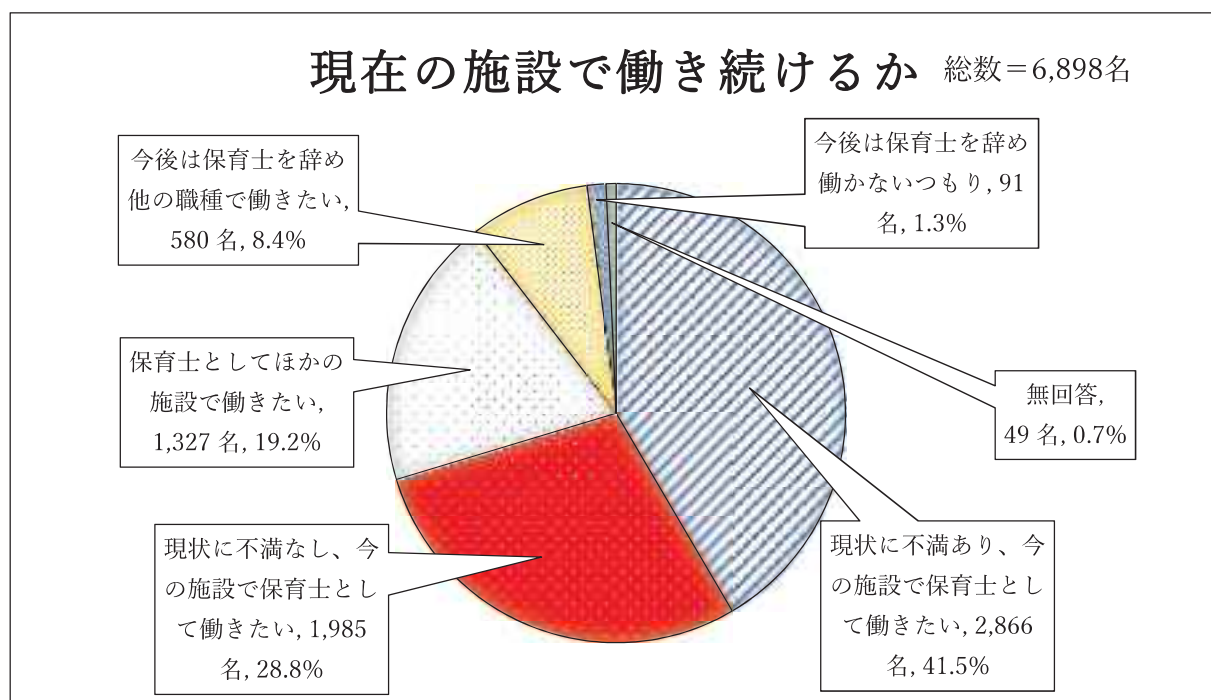


(9) 就業継続希望

現状に不満なく働き続けたい(28.8%)と、現状に不満はあるが働き続けたい(41.5%)の両者で7割を超える。

さらに、他の職場で保育士として働きたい(19.2%)を加えると保育士としての就業継続希望は、全体の89.5%になる。

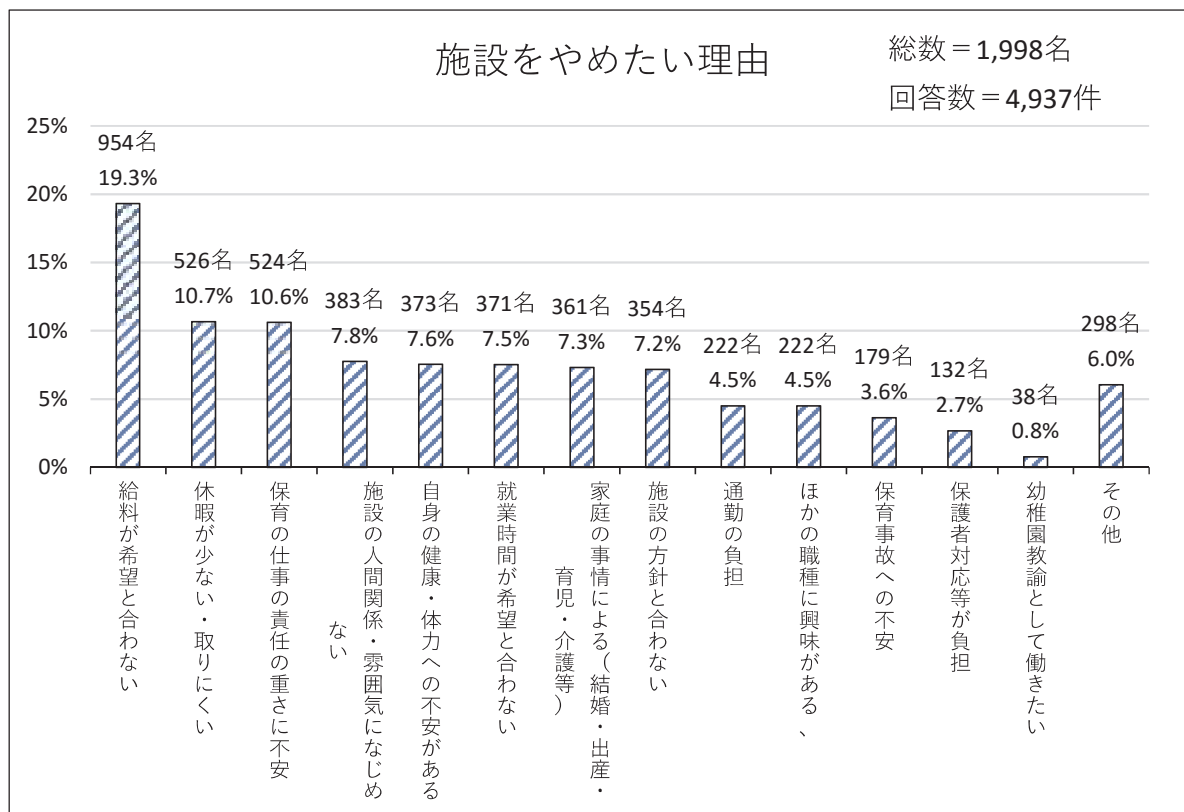
但し約1割は辞める意向を持っている。



(10)退職意向の理由(3つまでの複数回答)

退職の意向を持つ1,998名のその理由のTop3は、「給料が安い」(19.3%)、「休暇が少ない・取りにくい」(10.7%)、「仕事の責任の重さに不安」(10.6%)である。

待遇面と保育士としての責任の重さに対する不安が上位を占める。

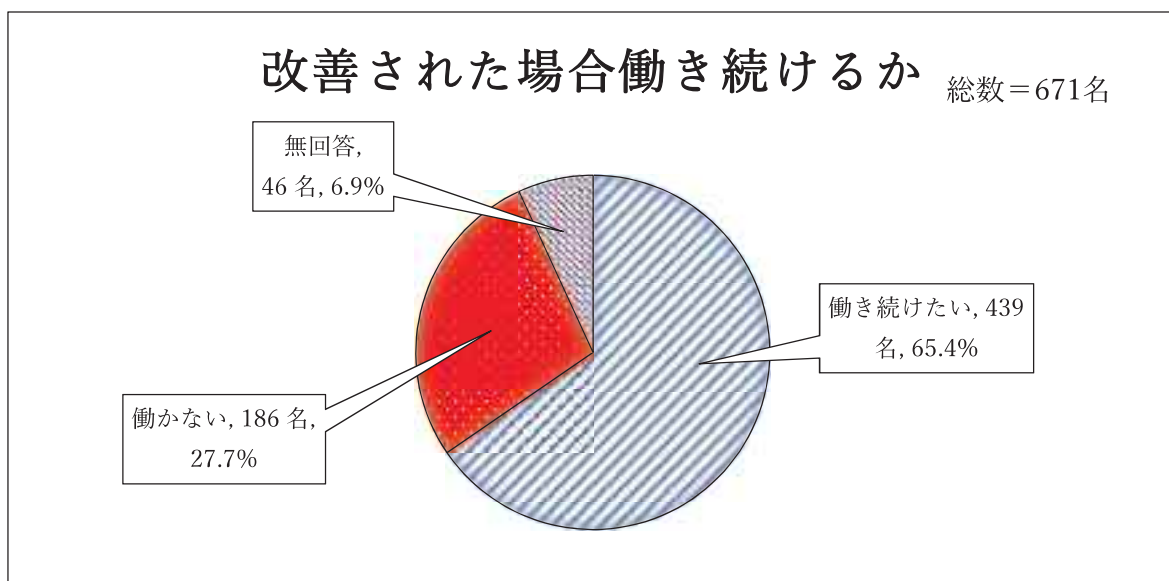


その他抜粋

- * スキルアップのため、資格勉強したい、学びたい
- * いずれ正規・フルタイムで働きたい
- * 休憩時間が無い、取れない
- * 経営者・上司への不信・不満

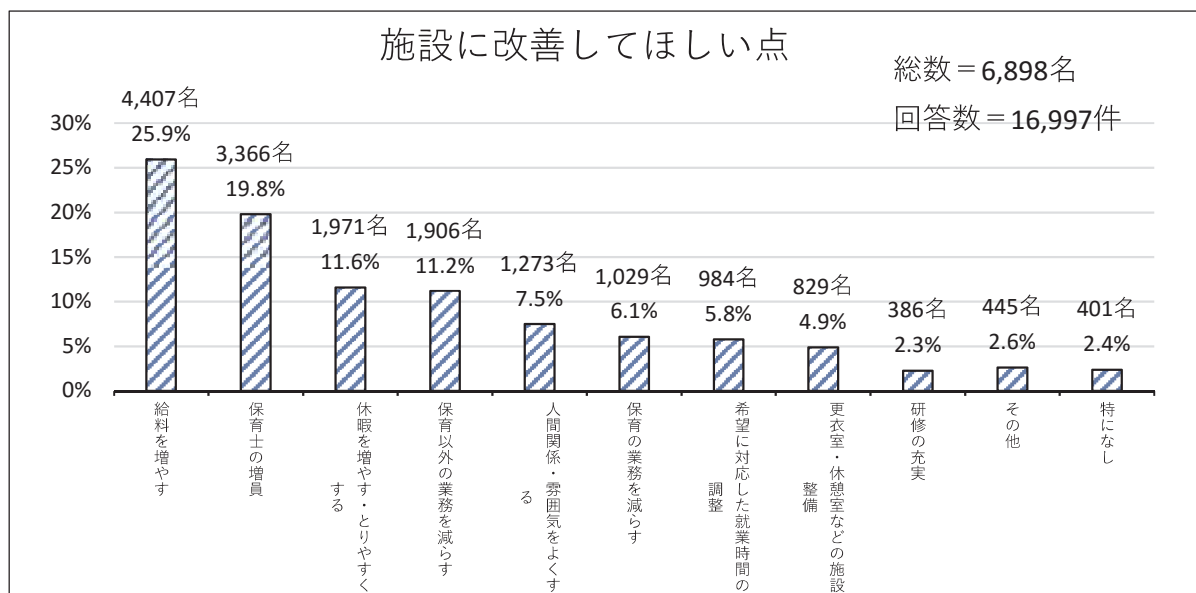
(11) (10)の退職意向の理由が改善された場合の就業継続の意向

保育士としての就業を辞めたいと回答した671名の内439名(65.4%)は、それらの理由が改善されれば就業を継続したいと回答。



(12)現在の勤務先への改善希望(3つまでの複数回答)

給料アップの希望が最も多く25.9%。保育士の増員(19.8%)、休暇を増やす(11.6%)、保育以外の業務量減(11.2%)が続く。業務量の多さに見合う給与を望む声が多い。

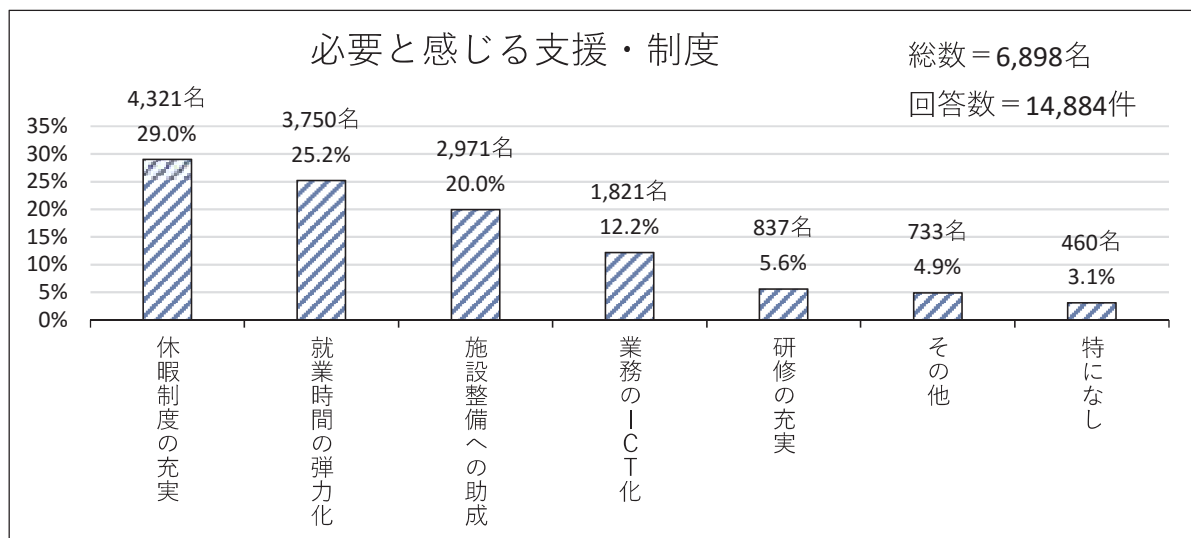


その他抜粋

- * 休憩時間の確保、時間増
- * 残業手当を出してほしい。 サービス残業・持ち帰りの仕事を無に
- * 遊具・玩具の充実

(13) 必要と感じる支援・制度

休暇制度の充実(29.1%)、従業時間の弾力化(25.3%)、施設設備への助成(20.0%)が、働きやすい環境のために必要と感じる支援・制度の上位となった。

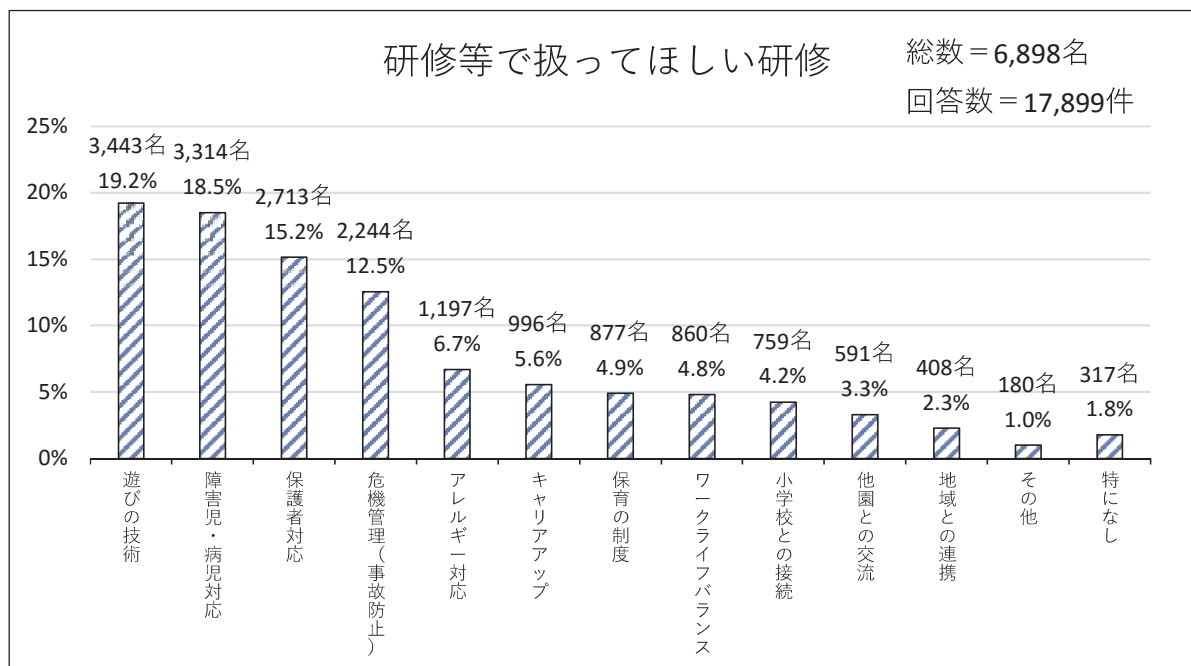


その他抜粋

- * 一層の収入増につながる支援
- * 業務・書類の簡素化・効率化に結び付く支援
- * 仕事の絶対量軽減のための制度の導入

(14) 研修への希望(3つまでの複数回答)

「遊びの技術」(19.2%)、「障害児・病児対応」(18.5%)、「保護者対応」(15.2%)が希望する研修の上位となった。

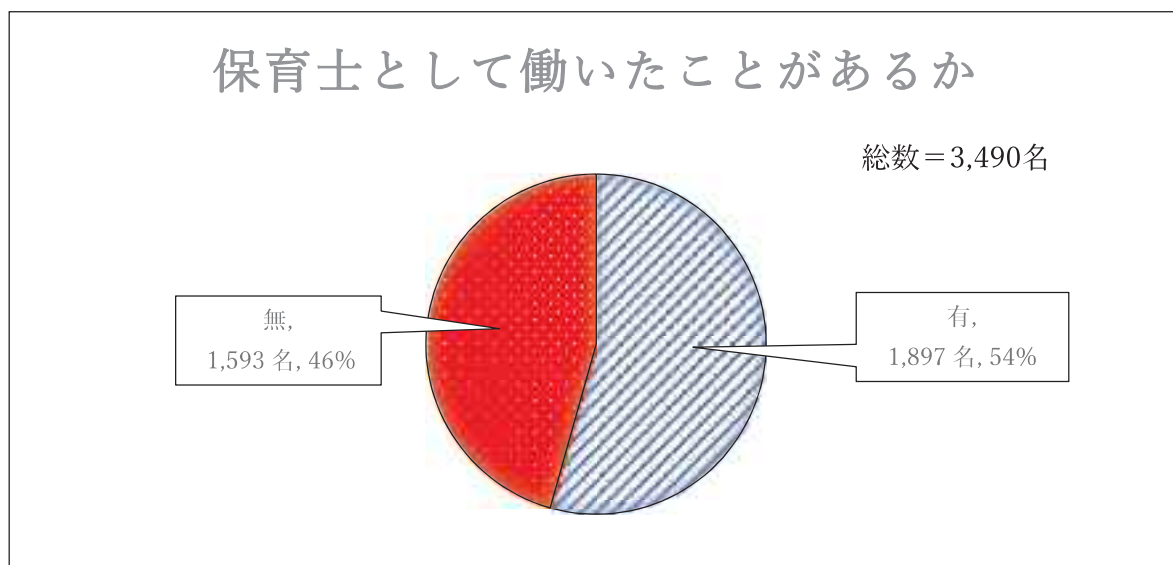


その他抜粋: カウンセリング、LGBT、コンプライアンス、パワハラ(対応)、チームワーク、PC操作、等

5. 過去保育士就業経験者・保育士就業未経験者の実態について (現在保育士として働いていない方への質問)

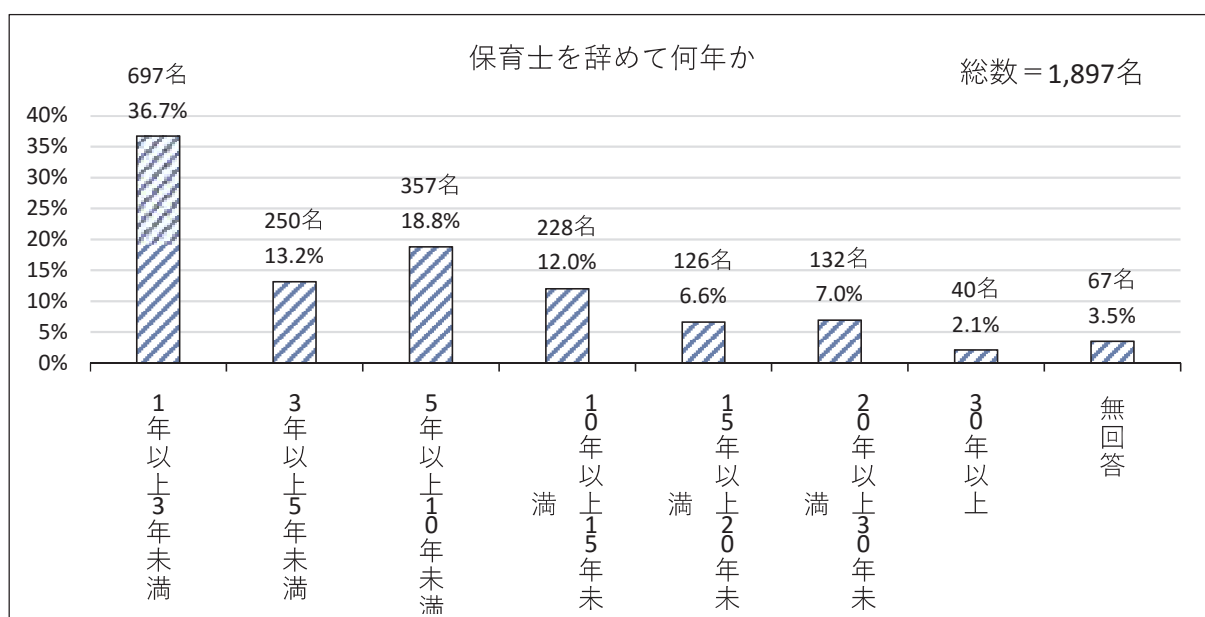
(1) 保育士経験の有無

現在、保育士として従事していない3,490名のうち、54%が保育士として従事した経験を持っている。



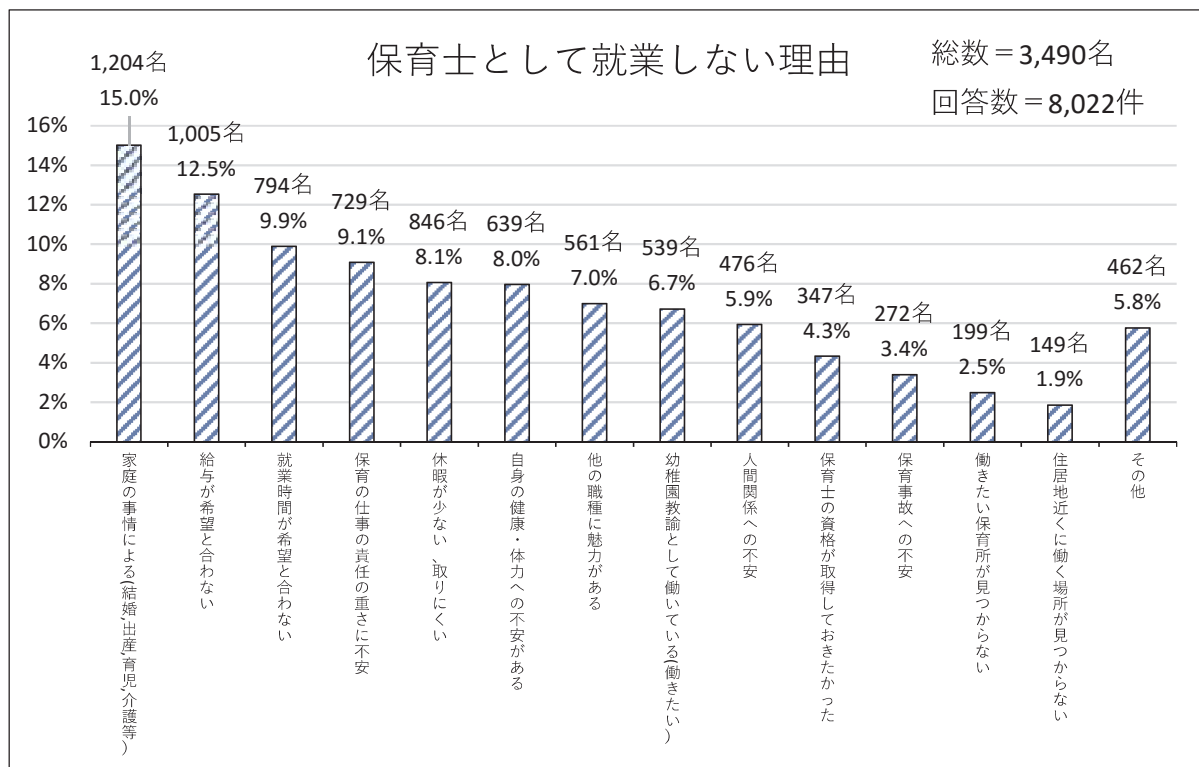
(2) 保育士を辞めて何年か

(1)で保育士経験があると回答した1,897名のうち、36.7%が保育士を辞めて「1年以上3年未満」、次いで「5年以上10年未満」が18.8%となった。



(3) 保育士として就業しない理由 (3つまでの複数回答)

「家庭の事情」(15.0%)、「給料が希望と合わない」(12.5%)、「就業時間が希望と合わない」(9.9%)が、保育士として就業しない理由の上位となった。

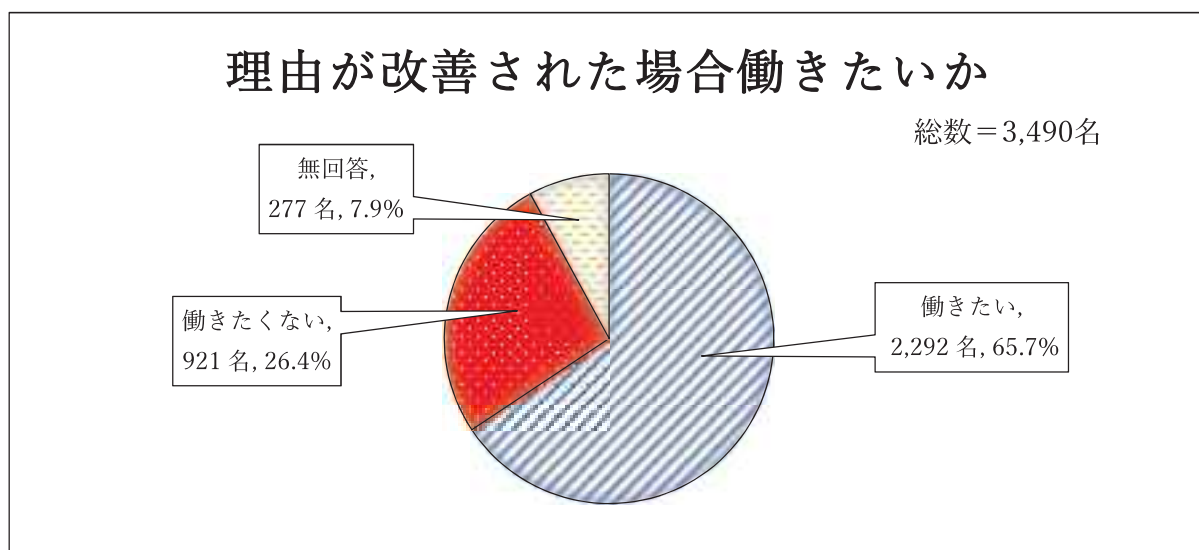


その他抜粋

- * 他の仕事に就いている。他の資格を生かしたい、家業を継いだ、等
- * 自分の子育てを優先したいため。

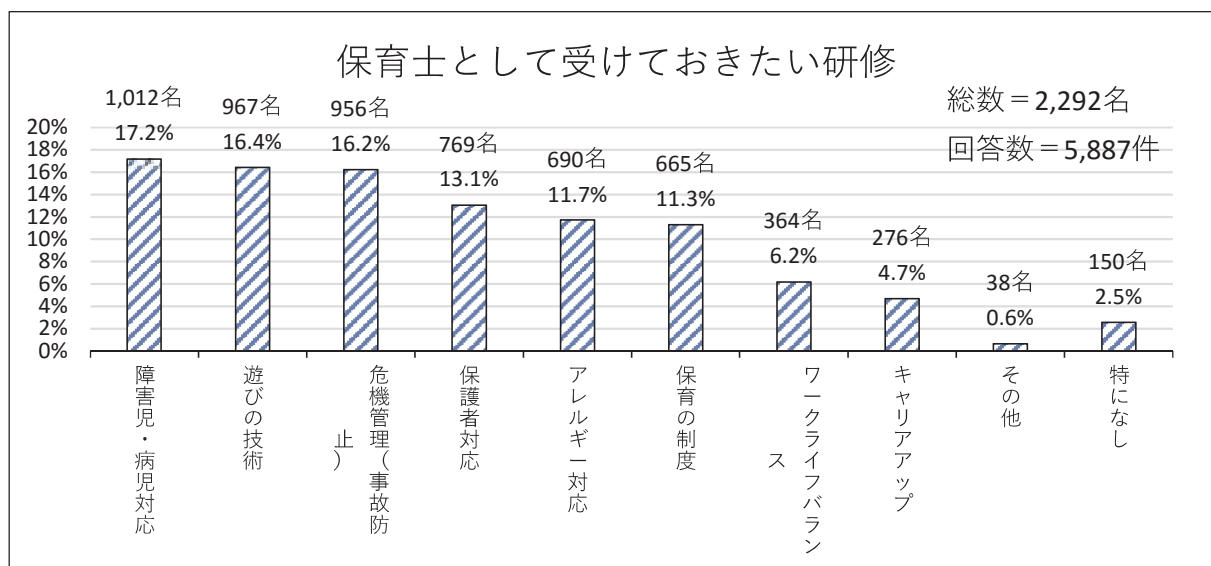
(4) (3)が改善された場合、保育士として働きたいか

およそ3分の2(65.7%)が、(3)で挙げた就業しない理由が改善された場合、働きたいと回答。



(5) 希望の研修(3つまでの複数回答)

(4)で就業しない理由が改善されれば保育士として働きたいと答えた2,292名の研修希望は、「障害児・病児対応」(17.2%)、「遊びの技術」(16.4%)、「危機管理」(16.2%)、が上位となった。



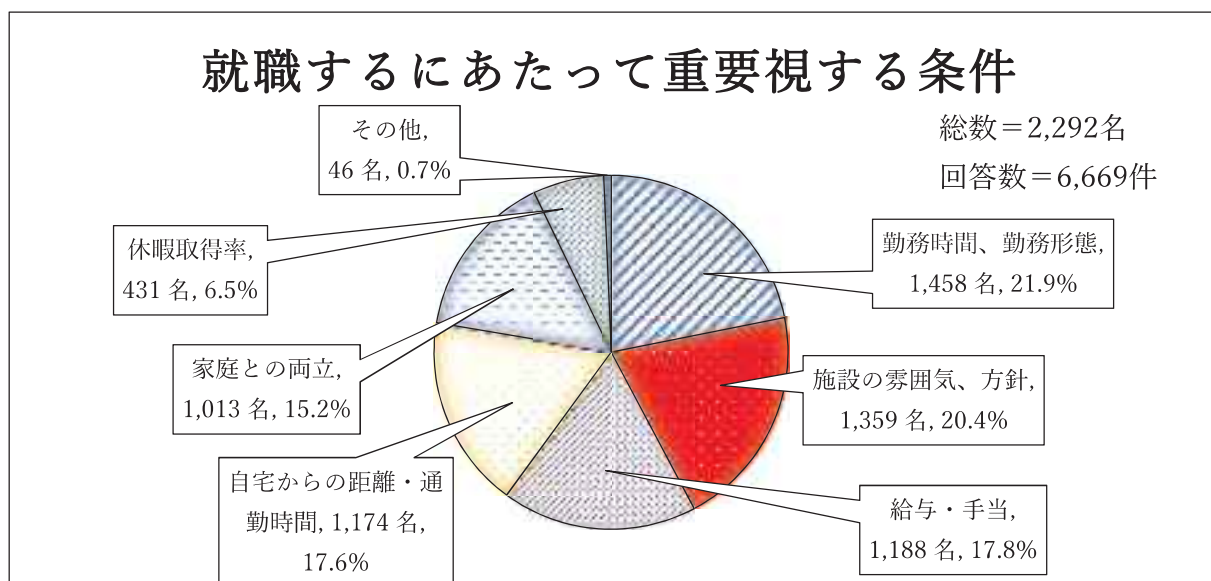
その他抜粋

- * 空白期間を埋めるキャッチアップ研修
- * 衛生管理、応急処置、ピアノ、英語等々
- * 保育実習

(6) 保育士として就職するにあたり重要視する条件(3つまでの複数回答)

「勤務時間・勤務形態」(21.9%)、「施設の雰囲気・方針」(20.4%)、「給与・手当」(17.8%)、が重要視する上位となった。

現有保育士の方の改善要求や辞めたいと思っている理由で最も多い「給料・手当」が、ここでは3番目に多い条件になっている。

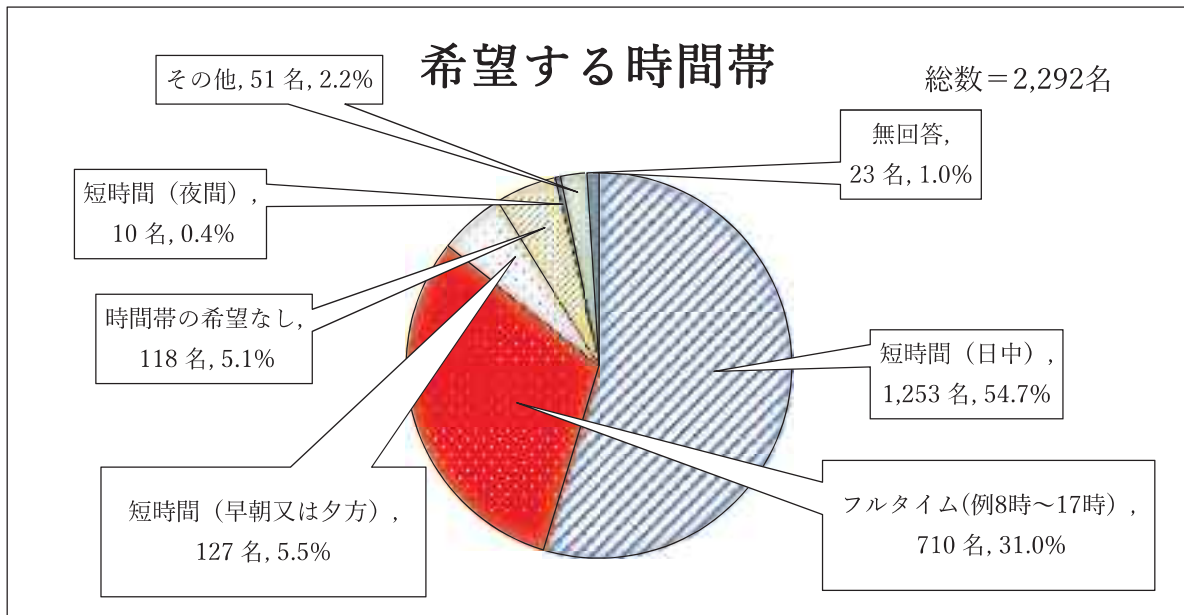


その他抜粋

- * 職場の人間関係が良好であること、ハラスメントが無いこと
- * 上層部の意識・人柄、等

(7) 保育士として就職するにあたって希望する時間帯

フルタイム(31.4%)を抑えて、日中の短時間勤務を希望するが最も多かった(54.7%)



その他抜粋

- * その時に応じて(フレックス制)
- * 就職時の状況次第

6. 保育士の仕事等に関する意見（抜粋・要旨）

保育の仕事等に関して、自由記述で意見をいただいたものを抜粋・要約してまとめたものである。

意見として多いものは、アンケートの結果にもあるように、給与等の待遇改善、仕事量や仕事の責任の重さ、施設の運営方針等への不満等が多くみられた。

（※以下意見）

- 保育制度の処遇・待遇やキャリアアップについてわかりやすくしてほしい。
- 連絡帳等の書類が手書きなど、業務の非効率さが目立つ。
- やることの多さに対して給与の少なさが気になる。無償化も結構だが、保育士の待遇改善にも目を向けてほしい。
- 精神的、身体的にきつい仕事であるのに、給料が見合っていない。このままでは、資格を取った若い世代の方も他の職種に流れてしまう。
- 子供が増えているのに人手が足りない。「待機をなくす」ことばかりで、本当に必要ではない家庭の子どもが入所している状況に対応していない。
- 病気等で保育が難しい保護者の負担を減らすことは大切だが、その保護者の不満のはけ口が保育士となっている。担当部署を分けるべき。
- 運営する市町村によって、パート職員に手当が有るところと無いところがある。手当が有るところで働きたい。
- 台風等の危険が伴う時でも出勤する等、職員の安全は考えないのか。運営する市町村で一斉休園にしてほしい。
- 給料が安い。残業しても給料が出ない。休憩がない。持ち帰りの仕事が多い。
- 公立、民営、社会福祉法人で待遇が違いすぎる。労働条件を公立に近づけないと、人材確保は難しいと思う。自分の周囲の保育士資格を持っている人も働いている人はいない。パートとしてやっている人も幼稚園に流れている印象。
- 民間保育所で働いているが、国からの補助金を断っているため、同じ市の保育所と差がありすぎる。強制的に補助金を受けなければならないという制度をつくってほしい。
- 古くから歴史のある保育所の保育方針に慣れず、疑問に思うことがある。保育の専門知識や技術を国全体で共有できるよう、現代の保育に目を向けた研修に参加し、広められたら良いと思う。
- 働いていてリスクを感じる。そのリスクが給料に見合っていない。保護者対応にどれだけ神経をすり減らしているか、年々増える障害のある児童への対応、アレルギーのある児童への対応、人手不足など、仕事の責任は増えるばかり。県、国として切実に対応していただきたい。
- 他の保育所での働き方や取り組み等、様子がわからないので、そのような情報をみえるようにし、保育士の仕事が続けられるような保育士の声が届いてほしい。
- 業務内容と量が多い。資格があればできる職種であるが、経験の少ない保育士を育てていく時間も確保できず、保育者が育っているとは言い難い。保育士の質、保育の質を高めたい。

- 現在の保育士の現場は、「保護者ありき」で動いている。その結果、保育士バッシングなどプレッシャーが多くなっている。子どもとかわる中で、様々なことが起きるのは当たり前のことと思う。国はもっと保育士という仕事を守ってほしい。
- 企業が経営主体の保育所は、利益を上げることに重きを置いている。市町村が母体となっているところは、情緒、社会性、年齢に合わせた関わりを重点としていると思うが、企業が運営している施設は、見た目重視、保護者重視になっている。働いているときは、心身の休みが取れず体調を崩し、この仕事に戻りたいと思えないでいる。
- 「役に立つ資格を」と思い保育士試験を受けた。役に立つのは間違いないと思うが、待遇面で保育士になろうとは思えない。施設保育士に興味があるので、保育園だけでなく様々な福祉施設で活躍の場があることをアピールすることも大事だと思う。
- 保育士の不足による保育の質の低下を心配している。子どもの安全はもちろん、人格形成にも影響がある仕事なので、保育のレベルを持続するため、研修を十分行ってほしい。きつくて責任は重いのに給料が安いのも、保育士離れの原因であると思う。
- 安月給のうえ責任も重い。看護師並みの給料くらいないと働きたくない。生活に困らない限り保育士として働くつもりはない。
- 大変な仕事内容の割に給料が低い。業務内容が多くサービス残業や休日出勤もしないと仕事が終わらない。女性が多い仕事で、結婚・出産するとやめる人も多く、子供が生まれると働きづらい環境である。より良い改善をお願いしたい。
- 現代の保育の仕事は、今までの「養護」の意味合いよりも、子どもの「教育」の側面のほうが大きいように思う。「教育」の仕事への従事との給与面での差の大きさが気になるところ。人材育成の基盤の部分にもっと投資すべきだと思う。
- クレーマーと言われる保護者の対応に、若い職員はメンタル面で病んでしまう。役所等が間に入る等、園を守るという体制が必要だと思う。情緒障害等の園児の増加により、通常の集団保育が困難なため、保育人数の見直しの必要性を感じる。外国籍の方が増えているので、言葉の問題や習慣の違い、考え方の違い等も問題となっている。本当に必要としている人の保育所利用という点も考える必要がある。
- とてもやりがいのある仕事だが、仕事内容や労働に対しての対価が低いように感じる。今の年齢で手取りを見ると、驚きと同時に公立でなかったらやめている。保育の質を上げるのはもちろんだが、それならば、給料を上げるとか、保育者の配置人数を増やすべき。安月給のままでは士気も下がり、何のプラスにもならない。
- 自分の子どもを他の園に預けて仕事をしているが、思うように休みが取れないため、行事に出られない。日常も早番・遅番が毎日のようにあり、家庭を犠牲にしている。給料を上げてほしいことと、人材を確保できれば休みも取れるため、一人一人が働きやすくなるよう願う。
- 人間なのでいろいろあることはわかるが、上席の方がイライラしたり、それをぶつけてきたりするのとはどうかと思う。人間関係・先輩としての在り方などの研修があればよいと思う
- 持ち帰りの仕事なくなるのが理想。仕事が多すぎて終わらないため、自分の時間が無い。
- 保育士不足を感じる。幼稚園勤務の後、保育園で勤務したが、保育の質は幼稚園のほうが高いと思う場面が多い。
- 保育士定数の緩和をお願いしたい。東京都では、1歳児5人に対し1人、3歳児15人に対して1人だそうです。「気になる子」が多くなってきているので、検討していただきたい。無償化が始まり、今後ますます増えてくると思う。

- 幼稚園教諭の資格を取得後、10年以上がたち失効しているが、働きながら更新する時間が取れない。近い場所で短時間に更新できると良い。
- 制度について、子育て支援という観点で、保護者が利用しやすいように変えられてきているが、それによって、長時間預けられている子どもが増えているように感じる。子どもの視点からの考え方も、保育士から聞き取ってほしい。
- どの都道府県も、給料を上げて休暇を取りやすい環境を作ってほしい。仕事が多く、仕事内容も簡単ではないのに、このままでは続けていくことが難しい。保育士不足というなら、働きやすい環境を作ってほしい。
- 発達段階、発達に配慮が必要な子どもへの対応知識が足りない保育士が多く、正しい対応ができていない。職員間で相談する時間もない、する気のない職員もいる。研修等すべての職員の知識や認識を上げていくべき。
- 労働にあった給料にしてほしい。命を預かる仕事に対し低すぎると思う。
- 保育士不足＝保育士の質の低下は避けていただきたい。
- 仕事上、膝をつくことが多く、プロテクター等支給されるとかがあってもよいと思う。首、肩、腰等、体中痛めている人が多い。非常勤にも有休がほしい。キャリアに関係なく一律の時給でなく差をつけてほしい。そもそも保育士の給料を上げないと、なり手が減っていくと思う。
- 様々な保護者が増え、保護者からの意見をすべて受けなければいけないことに納得がいかない。事務作業の簡素化というのに書き物が多い。パソコンを使用した退勤処理等、専門の事務員を置いてほしい。国家資格というのに、給料が仕事内容に見合っていない。
- 幼稚園教諭の資格の更新の単位を減らすか、必ず受講できる環境を整えてほしい。保育士ばかりでなく、同じ幼児教育を行っている幼稚園教諭のことも考えていただきたい。
- 責任は重く、重労働、その割に低賃金。保育士の仕事はしたいが、別の仕事に就いている保育士が多いのが現実。待遇改善をお願いしたい。
- 保育士としては、体の健康状態に自信がなく、仕事をすることに不安があるが、何か保育に関する仕事があれば働いてみたい。
- 給料と人間関係に魅力がないので、フルタイムでの勤務は考えられない。副業がOKで、土日の短時間勤務がOKならやっても良いと思う。
- 保育士の質を上げることが大切。そのためには、保育士をなりたい職業にすることで、給料、収入は大事だと思う。施設の増え方と保育士の質が反比例している。誰でもよくて、そこに有資格者がいればよい、というのが現状。
- 保育士という職業は、とても良い仕事でやりがいがある。では、なぜ保育士の資格を持っている人がこんなにいるのに、働いている人がいないのか。それは言わなくても、あなた方が一番わかっているのではないか。千葉県自体、今、改善されている箇所はたくさんあるが、まだまだだと思う。昔ながらの保育の風習なども変えていかなくてはいけないのではないか。将来を担う子どもの成長、命を預かる保育士がたくさん増えてくれることを望む。

7. 調査結果まとめ

県として、国や市町村と連携しながら、施設整備による保育の受け皿の確保を進めているが、保育の受け皿を確保するためには、保育を支える保育士の確保が必要不可欠である。

しかしながら、令和2年1月時点の県における保育士の有効求人倍率は3.91倍となっており、保育士の確保が急務となっている。

今回の調査結果からは、現任保育士で退職意向を持つ方でも、退職理由が改善されれば、就業を継続すると答えた方が約66%おり、具体的には、「給料の増額」や「休暇の取りやすさ」のほか、「仕事の責任の重さの不安」「施設の間人関係」「自身の健康体力への不安」「保育事故への不安」など公私にわたる不安が多く挙げられていることから、処遇・待遇の改善、保育の仕事に就くうえでの公私にわたる不安を取り除くことで、退職を考えない方も多くいることがわかる。

一方、潜在保育士が保育士として就職しない理由に、育児・介護等の家庭の事業が多くなっており、保育士として就職するにあたっての希望時間帯に「短時間」を希望するが最も多く、弾力的に勤務時間帯が選択できる職場であれば、保育士として就業できる方も多くいることがわかった。

また、現任保育士と同様、公私にわたる不安要素も、保育士として就業しない理由の多くを占めている。

この状況を改善するためには、処遇改善や勤務環境の改善、仕事への不安を取り除くサポート体制の強化に取り組む必要がある。

県としても、現在、保育士として従事している方や潜在保育士が、県内で保育士として働きたい、働き続けたいと思えるように、保育人材の確保・定着の取組を強化していきたい。

実態調査に御協力いただき、ありがとうございました。

